

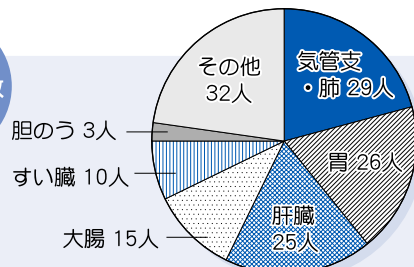
がん検診を受けましょう！

2007年に全国で、がんで亡くなった方は325,941人で、心臓病や脳血管疾患を追いぬいて、1981年以来、死亡原因の第1位となっています。40～70歳代では、5人に2人とたいへん高い率です。男女別に見ると、男性は**1位** 肺がん、**2位** 胃がん、**3位** 肝臓がん。女性は**1位** 大腸がん、**2位** 胃がん、**3位** 肺がんとなっています。女性特有の乳がんは食生活の欧米化等で5位と増加しているものの、子宮がんは、検診の普及と早期に発見できればほぼ100%治癒することなどから減少傾向にあります。

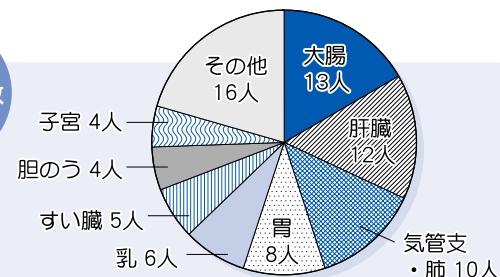
笠間市の2006年のがん死亡者数218人の男女別は右の表のようになっており、肺、大腸、胃が多くを占めているのは全国の傾向と同様です。これらのがんは近年、検診による早期発見や治療方法の向上によって、治る可能性が高くなっています。市の胃がん、大腸がん、肺がん検診は40歳から、子宮がんは20歳、乳がんは30歳から受診できますので、年に1回は受けましょう。

【笠間市のがん死亡者数(2006年)】

男性
がん死亡数
140人



女性
がん死亡数
78人



笠間のがんばる企業紹介⑪

笠間市には、全国でもトップクラスの技術を持つ企業がたくさんあります。このコーナーでは、より良い製品づくりを目指して研究・開発に取り組む市内の企業を紹介いたします。

イチカワ(株)岩間工場

私たちの暮らしに欠かせない

「紙」。紙の生産で無くてはならないのが、フェルトと呼ばれるベルトコンベア状の濾過布です。

製紙用フェルトには、①紙に含まれる水分を絞る②紙の表面を滑らかにする③紙を傷つけずに次の工程へ運ぶという重要な役割があります。今年創業60周年を迎えるイチカワ(株)は、製紙用フェルトでトップクラスのシェアと技術を誇る東証一部上場企業で、国内での紙生産の50%を支えています。岩間工業団地内の工場では、幅33メートルある世界最大の織機が稼働し、巨大なフェルトが製造されています。製造部長の井上日出夫さんにお話を伺いました。

——とにかく機械の大きさに圧倒されますね。

「大きさもさることながら、重要なのは品質です。幅10メートルを超える大型製紙マシンが時速100メートル以上で1ヶ月以上連続運転します。フェルトの性能や小さな斑が紙の生産や品質に大きく影響します。そのため、工場では設備の精度だけでなく、製造工程での温湿度管理はもちろんです。専門の検査員の目と手に

よるチェック、さらに専用の機器での精密検査と、万全の体制で管理しています。」

——大きさと品質の両方を兼ね備えるためには、高い技術が必要ですね。

「はい。友部地区にある開発研究所では、さまざまな機器を使ってお客様のニーズに合わせた製品開発をしています。滑らかで美しい紙を皆様にお届けするための、縁の下での力持ち、それが当社の製品です。」



世界最大級の織機

イチカワ(株)岩間工場

従業員数▼307人

敷地面積▼66,000㎡

※文責▽笠間市役所企業誘致推進室(内線228)